



ハイライトよねやま 169

1 寄付金速報 — 2013-14年度もあと3カ月 —

3月までの寄付金は前年同期と比べ1.9%増、約2,100万円の増加です。普通寄付金が0.02%増、特別寄付金が3.0%増となりました。前年度比マイナスが続いていた普通寄付金がほぼ例年並にまで回復し、特別寄付金も、7月からの累計額では直近5年間での最高額を維持し続けています。今後、残り3カ月の主な寄付金収入は特別寄付金となります。クラブ創立記念寄付も例年この時期に集中します。引き続き、皆さまからのご協力をよろしくお願い申し上げます。

2 各地区で新奨学生のオリエンテーションがスタート

2014学年度の奨学生は724人となりました。国・地域別では中国が40.6%、次いで韓国が15.8%、ベトナム9.8%、台湾5.5%の順となっています。中国・韓国籍の割合が2年連続で減少しており、両国の来日留学生数そのものが減少していることもありますが、地区選考委員会が国・地域の偏りに配慮して選考していることが伺えます。プログラム別では、今年度初めて学部課程が261人と最も多くなり、次いで修士課程が257人、博士課程が178人、そのほか、地区奨励奨学生(12人)やクラブ支援奨学生(10人)などとなっています。

4月～5月中旬にかけて、各地区でオリエンテーションが開催されます。米山奨学生としての義務やこの事業の意義を理解してもらい、確約書に署名をした後、正式に米山奨学生となります。また、オリエンテーションでは学友会メンバーも受付や学友会の説明に活躍しています。どうぞ温かくお迎えくださいますようお願いいたします。

3 タイ米山学友会の総会・活動報告

3月23日、タイ米山学友会の年次総会がバンコク市内で開かれ、学友約30人が参加しました。創立して3年目を迎える今回は役員の変更が行われ、第2代会長にはプリチャー・カリンさん(2009-10/東京日本橋RC)、副会長にワラウト・ブンロッドさん(1995-97/福岡東南RC)らが選ばれ、役員の色づれが一新しました。

タイでは昨秋から政局混乱がつづいており、3カ月に1度の理事会も思うように開催できない状況でしたが、今後の活動としてタイの大学生2人(タマサート大学・泰日工業大学)に各人10,000バーツの奨学金を支給することを決定し、後日、学友会役員が直接奨学生に手渡しました。プリチャー会長は「先輩方が築いてきた学友会を引き継ぎ、今後もより活発な活動を行って、日本のみなさんに良い報告ができるようベストを尽くしたい」と、抱負を語りました。



左からコンキットさん、ウイチット前会長、泰日工業大学の奨学生

4

さいたま大空ロータリークラブ加盟認証状伝達式

昨年11月4日に創立した「さいたま大空ロータリークラブ」(第2770地区)の国際ロータリー加盟認証状伝達式が3月23日、さいたま市内で開催されました。このクラブは、24人の創立会員全員が財団学友と米山学友で構成されており、会員の出身国は6カ国、平均年齢は35歳という国際色豊かな新世代のクラブです。初代会長は米山学友の李成哲さん(2005-06/川口モーニングRC)、幹事は米山学友の馬培金さん(1998-99/さいたま中央RC)です。



式典には約280人が参加し、恵川一成特別代表(大宮シティRC)、地区クラブ拡大特別委員長・田村亮夫パストガバナーの挨拶のあと、李会長からロータリー財団とロータリー米山記念奨学会へそれぞれ寄付金が贈呈されました。その後、渡邊和良ガバナーから李会長へ加盟認証状が手渡され、国際ロータリー理事の北清治氏から祝辞が述べられました。記念祝賀会では、会員が優美な民族舞踊を披露し、

本国や派遣先国の民族衣装を身にまとい、現地で挨拶をするなど、クラブの特色を生かした演出で参加者を楽しませました。最後は全員で「手に手つないで」を合唱し幕を閉じました。李会長は「国や民族、宗教、言葉などが違って、私たちは皆、ロータリーとの出会いによって、人生に大きな影響を受けた。これからもお互いを尊重し、共に奉仕活動を行う中で友情を育み、その素晴らしさを世界の平和のために発信していきたい」と、決意を述べました。

5

学友から広がる支援の輪 — 第2790地区 —

米山学友、サジーワニ・ディサーナーヤカさん(2011-13/松戸西RC)は、母国スリランカの貧しい子どもたちへの教育支援活動を、夫メルビン氏とともにしています。自身も里子として進学し留学を果たしたサジーワニさんは、より多くの子どもへ教育の機会を与えたいと願い、2007年、元公立小学校校長の鈴木康夫氏の資金協力のもと「コスモス奨学金」を設立。現在では約130人の里子を支援しています。サジーワニさんが米山奨学生となり、地区内クラブへ卓話をするなかで、支援の輪も少しずつ広がっていると言います。そのうちの一人、同地区の元米山奨学委員長・四之宮由己氏や中村俊人氏らロータリアン約15人が今年2月末、ガンパハ地域の寺院で行われた奨学金授与式に参加し、里子たちの家庭を訪問視察しました。中村氏は今回の授与式参加について、「私の里子が空港まで迎えに来てくれて感激した。当日は、大臣や市長も出席する盛大な式典で、この奨学金について真剣な表情で聞き入る子どもたちの姿に身が引き締まる思いがした。里子の家庭訪問では、食事も満足に取れず電気もない中、夢をもって勉強する子どもたちの意欲に感銘を受けた」と、報告してくださいました。サジーワニさんも「スリランカの教育現場を実際に見ていただけたことが本当に嬉しい。米山奨学期間は終わりましたが、ロータリアンとのつながりが、今の私を支えています」と、感謝を表しました。



中村氏(左)とサジーワニさん(右)



学用品授与のようす